

事業所における自己評価結果

事業所名	わくわくハウス あげお校
------	--------------

実施年月日 : 2025年12月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容に応じて空間を使い分け、適切な距離感を保ちながら安全で落ち着いた環境づくりを行っている。	利用人数や活動内容に応じた空間調整をさらに工夫し、より快適に過ごせる環境づくりを進めていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		こどもの特性や人数に応じて柔軟に職員配置を行い、安心して過ごせる支援体制を整えている。	時間帯や支援内容に応じた更なる配置の最適化を図り、より質の高い支援体制を目指す。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的に分かりやすい環境設定や動線の工夫により、こどもが安心して行動できる空間づくりを行っている。	個々の特性に応じた環境調整や情報伝達方法のさらなる工夫を継続していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃や衛生管理を徹底し、こどもが安心して心地よく過ごせる環境を維持している。	活動内容に応じた空間の使い分けや快適性の向上に向けた継続的な見直しを行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別対応ができるスペースを確保し、落ち着いて過ごせる環境づくりを行っている。	利用状況に応じた個別空間の活用方法をさらに工夫し、より柔軟な対応を図る。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な会議や振り返りの機会を設け、職員全体で目標共有と改善検討を行っている。	全職員がより主体的に参画できるよう、意見共有の機会や仕組みの充実を図る。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価を実施し、意見や要望を丁寧に把握し、日々の支援や運営改善に活かしている。	意見の反映状況をより分かりやすく共有し、改善への実感につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日常的な情報共有や会議を通じて職員の意見を集約し、業務改善に反映している。	多様な意見がより出やすい環境づくりと、反映の見える化を進める必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部の視点を取り入れることで、客観的な評価を踏まえた運営改善に努めている。	第三者評価の機会や活用方法をさらに充実させ、継続的な改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や内部研修の機会を確保し、職員の専門性向上に継続的に取り組んでいる。	研修内容の充実と参加機会の均等化を図り、さらなる資質向上を目指す。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを計画的に作成し、内容が分かりやすくなるよう公表・周知に努めている。	保護者への理解をさらに深めるため、発信方法や説明機会の充実を図る。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談や日々の様子を踏まえ、こどもと保護者のニーズを丁寧に把握し計画に反映している。	より客観性を高めるため、情報収集方法や分析の精度向上を継続していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		関係職員で情報共有を行い、こどもの最善の利益を踏まえた計画検討を実施している。	全職員がより積極的に参画できるよう、検討機会のさらなる充実を図る。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を職員間で共有し、統一した支援が行えるよう日々の連携を重視している。	共有方法の工夫により、より一層の理解と実践の徹底を図る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の観察に加え必要に応じた評価方法を用い、こどもの状態把握に努めている。	標準化されたツールの活用を進め、より客観的な評価体制の充実を図る。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人・家族・移行・地域連携を踏まえ、多面的な視点から具体的な支援内容を計画に反映している。	各支援項目の連携をさらに深め、より一貫性のある支援計画の充実を図る。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で意見を出し合い、こどもの特性に応じた多様な活動プログラムを共同で立案している。	全職員がより主体的に関われるよう、意見交換の機会をさらに充実させる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		こどもの興味や成長に応じて内容を見直し、活動が固定化しないよう工夫している。	新たな活動の導入や評価の仕組みを強化し、さらなる充実を図る。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の状況に応じて個別・集団活動をバランスよく組み合わせた支援を実施している。	個別ニーズに応じた柔軟な組み合わせをさらに充実させる。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打合せを行い、内容や役割を共有し、職員間で連携した支援を実施している。	情報共有の質を高め、より円滑なチーム支援体制の強化を図る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に職員間で振り返りを行い、気づきや改善点を共有し、次の支援に活かしている。	振り返りの質を高め、より具体的な改善につなげる仕組みづくりを進める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録を丁寧に残し、こどもの変化を把握しながら支援の見直しに活用している。	記録内容の統一や活用方法を工夫し、より効果的な改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、状況に応じた計画の見直しを適切に実施している。	よりきめ細やかな評価と迅速な見直しにより、支援の質向上を図る。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	○		複数の基本活動を組み合わせ、こどもの成長につながる多面的な支援を実施している。	活動の組み合わせをさらに工夫し、より効果的な支援内容の充実を図る。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもが選択できる場面を設け、自ら考え決める力を育む支援を意識して行っている。	個々の発達段階に応じた選択支援の工夫をさらに充実させる。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの状況を把握した職員が会議に参加し、適切な情報共有と支援方針の連携を図っている。	関係機関との連携をさらに深め、情報共有の質と継続性の向上を図る。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療・福祉・教育等の関係機関と連携し、こどもを多面的に支える体制づくりを行っている。	連携の機会や情報交換の充実を図り、より一体的な支援体制の強化を目指す。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と情報共有や連絡調整を行い、送迎や日々の支援が円滑に進むよう連携している。	情報共有の頻度や内容の充実を図り、よりスムーズな連携体制を構築する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて就学前施設との情報共有を行い、継続した支援につなげている。	連携機会の拡充や情報共有の仕組みづくりを進め、相互理解の向上を図る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	移行時には支援内容やこどもの状況を関係機関へ共有し、円滑な引き継ぎに努めている。	より計画的な移行支援と情報提供の充実を図り、継続的な支援につなげる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	必要に応じて関係機関と連携し、助言や情報を支援に活かす体制づくりに努めている。	研修や助言を受ける機会をさらに充実させ、専門性の向上につなげていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	日々の活動の中で社会性を育む支援を行い、地域とのつながりを意識した取り組みを行っている。	地域交流の機会を拡充し、他児との関わりを広げる取り組みを強化する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	必要に応じて関係機関の動向を把握し、支援に活かすよう努めている。	協議会等への参加機会を増やし、地域連携の強化を図る必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の様子を丁寧に伝え合い、発達状況や課題について保護者と共通理解を深めている。	共有内容の充実と機会の確保により、より深い連携を目指す。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	保護者への助言や情報提供を行い、家庭での関わりに役立つ支援を行っている。	研修やプログラムの提供機会を充実させ、家族支援のさらなる強化を図る。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程や利用者負担等について、分かりやすい説明を心がけ、丁寧な対応に努めている。	説明方法の工夫や理解度の確認を行い、より安心して利用いただける体制を整える。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談等を通じてこどもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を考慮した計画作成を行っている。	意向確認の機会や方法をさらに充実させ、より丁寧な支援につなげる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画内容を分かりやすく説明し、保護者の理解と同意を得た上で支援を実施している。	説明の充実や共有方法の工夫により、より理解しやすい支援体制を目指す。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談に丁寧に対応し、面談や助言を通じて安心して子育てできる支援を行っている。	相談しやすい環境づくりをさらに進め、支援の質の向上を図る。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	必要に応じて保護者同士の交流を意識した情報提供や関係づくりに努めている。	保護者会や交流機会の充実を図り、保護者同士のつながりを強化する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付体制を整備し、周知を行いながら迅速かつ丁寧な対応に努めている。	より安心して相談できる環境づくりと、対応状況の共有の充実を図る。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信やSNS等を活用し、活動内容や予定を分かりやすく継続的に発信している。	発信頻度や内容の充実を図り、より伝わりやすい情報提供を目指す。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理体制を整え、職員間で意識共有を図りながら適切な取扱いに努めている。	継続的な研修や確認により、さらなる意識向上と管理体制の強化を図る。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の特性に応じた伝達方法を工夫し、安心して意思疎通が図れる環境づくりを行っている。	より多様な方法を取り入れ、伝達の質の向上を図る。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域との関わりを意識し、開かれた事業所運営に向けた取り組みを進めている。	地域交流の機会をさらに拡充し、地域とのつながりを強化する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、職員間で共有するとともに、想定に基づく訓練を実施している。	保護者への周知や訓練内容の充実を図り、より実効性の高い体制づくりを進める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、定期的な避難訓練等を通じて災害時への備えを強化している。	訓練内容の見直しや実践的な取り組みを充実させ、対応力の向上を図る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬や既往歴等の情報を事前に確認し、個々の状況に応じた安全な支援に努めている。	情報更新の徹底と共有方法の工夫により、より確実な対応体制を整える。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示に基づき、食物アレルギーへの適切な対応と安全確保に努めている。	情報共有の徹底と確認体制の強化により、さらなる安全性向上を図る。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修や訓練を実施し、安全管理を意識した支援体制を整えている。	継続的な見直しと職員の意識向上により、安全管理体制のさらなる強化を図る。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組を保護者へ周知し、連携しながらこどもの安全確保に努めている。	周知方法の工夫により理解を深め、より安心につながる情報提供を充実させる。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを職員間で共有し、原因分析と再発防止策の検討を行っている。	記録や分析の質を高め、より実効性のある再発防止策の徹底を図る。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修等を通じて虐待防止への理解を深め、適切な支援の実施に努めている。	継続的な研修や振り返りにより、意識と対応力のさらなる向上を図る。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		必要性や手順を組織的に整理し、事前説明と同意を得た上で適切に計画へ反映している。	より丁寧な説明と記録の充実により、透明性と理解の向上を図る。